

平成23年度事業報告書

大慈学童クラブ

1. <法人ビジョン>

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. <基本方針>

- ①児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき利用者の人権を尊重する。
- ②利用者に対し、適切な自立への支援を行う。

3. <目標>

- ①思いやりの心と考える力を育てる。

- ・ 友達とのトラブル等、個別の対応が必要な児童については、1対1の落ち着いた環境で話しをし、相手の気持ちが理解出来る様に努めた。
- ・ ゲームのルールを子ども達で決めてもらう等、子ども達で出来る事に関しては子ども達で考え、進めていける様な環境を設定した。

- ②リスクマネジメントに基づき、リスクの軽減を図る。

- ・ ヒヤリハットとケガノートを用い、職員間で話し合い、リスクの軽減に努めた。また、依頼されている帰宅時間になっても、子どもを帰らせていない等の職員によるミスがヒヤリでは多かったので、その都度、対策案を話し合い、改善していった。

4. <保健衛生>

- ・ モップを購入し、集会室の床掃除の日を週2日に増やした。
- ・ 害虫駆除を行った。

5. <消防避難訓練>

- ・ 昼間実施の場合に参加した。

6. <広報>

- ・ 保護者、各区役所、神戸市役所子育て支援部に、学童新聞を発行した。
- ・ 新聞の内容に生活情報や豆知識など、暮らしに役に立つものを加え、内容の充実を図った。

7. <保育>

- ・ 保育は、通常8時～18時、その後は延長保育として21時まで行い、各家庭のニーズに合わせて実施した。また、今年度より延長保育の児童について、軽食提供を行うことにした。
- ・ 学童から習い事や病院に通える様、個別に対応した。
- ・ 昼食会は毎月実施し、2月からは少なくとも月2回、昼食の提供を行う様にした。
- ・ お盆休みをなくし通常保育を実施した。
- ・ 長期休暇や小学校の休校日の際はグループワークに行ったり、昼食会の回数を増やしたりした。

- ・夏休みは日射病対策として室内で楽しめるプールに行ったり、外遊びの時はお茶ではなく、スポーツドリンクを用意した。
- ・希望者のみ個人懇談を行い保護者と1対1で落ち着いて話をする場を作った。
- ・不審者の情報が入った時の対応を保護者に聞き、個別に実施した。また、警報が出た時は、送迎等について保護者に連絡確認し、個別に対応した。

8. 《行事内容》

月	日	行 事	月	日	行 事
4	7	昼食会	9	1	昼食会
	12	昼食会 のびっ慈 day (しっぽとり)		10	昼食会
5	14	昼食会		13	のびっ慈 day (大慈オリンピック)
	31	のびっ慈 day (小麦粉粘土遊び)		26	明石公園
6	18	昼食会		10	8
	20	須磨離宮公園→雨天の為中止	25	のびっ慈 day (空気砲作り&的当てゲーム)	
	27	個別懇談会 (希望者対象) (7/1まで)	11	7	森永乳業神戸工場
	28	のびっ慈 day (プラ板作り)		19	昼食会
7	7	七夕 (笹等を飾る)	12	29	のびっ慈 day (宝探し)
	20	昼食会		10	昼食会
	25	のびっ慈 day (万華鏡作り)		20	のびっ慈 day (オリジナルのジグソーパズル作成)
	29	昼食会	22	クリスマス会	
8	3	昼食会	1	10	もちつき
	4	ベイ板宿スイミング		21	昼食会
	8	交通安全教室	2	24	のびっ慈 day (風船遊び)
	9	昼食会		3	節分 (まめまき、面作り)
	11	ベイ板宿スイミング		4	昼食会
	16	のびっ慈 day (工作&水遊び)		14	のびっ慈 day (デコチョコ作り&ドッジボール) →雨天の為、ドッジボールは中止
	17	昼食会		18	昼食会
	18	ベイ板宿スイミング	3	3	ひな祭り (雛壇を飾る)
	19	ボランティア (ぶんぶんたいこ作り)		22	お別れ会
	22	ボランティア (割り箸鉄砲作り)		23	昼食会
	24	地藏盆		27	のびっ慈 day (メリケンパーク)
	25	ベイ板宿スイミング		29	昼食会
	26	昼食会			
	29	昼食会			
	30	東川崎福祉センター映画会			
31	屋台村				

①のびっ慈 day (宿題は各家庭で見てもらい、遊びを中心とした一日)

子ども達が楽しめる様に、22年度とは、違う遊び等も提案し、実施した。子ども達自身、喜んで参加してくれているので、24年度も、保護者の方に協力してもらい、続けたい。

②ボランティア (ぶんぶんたいこ作り・割り箸鉄砲)

昔の遊び体験として、ぶんぶんたいこ作りや割り箸鉄砲作りをした。職員では伝えることができない昔の遊びをボランティアの方が教えてくれるため、職員も良い勉強になった。

9. 《会議》

学童委員会（月1回）

→玩具の使用方法、集会室でのルール、個別の対応が必要な児童等、学童に関する事については学童委員長を主として、職員同士で話し合い、対応して行った。今後も各職員の現場の声が反映出来る様な会議を行っていきたい。

10. 《利用人数》

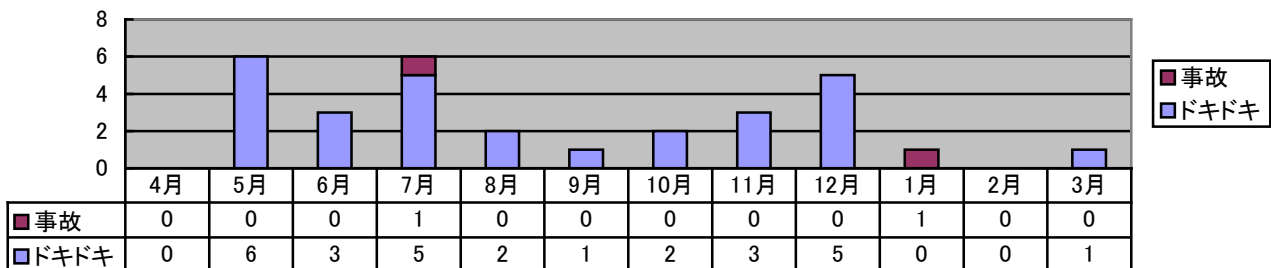
初日在籍数（人）

学年 月	学年				学年 月	学年			
	1年	2年	3年	合計		1年	2年	3年	合計
4	17	6	9	32	10	17	4	9	30
5	17	6	9	32	11	17	4	9	30
6	17	4	9	30	12	17	4	9	30
7	17	4	9	30	1	17	4	9	30
8	17	5	9	31	2	16	4	9	29
9	17	5	9	31	3	15	4	9	28

11. 《リスクマネジメント報告》

①23年度ヒヤリハット報告件数・・・28件

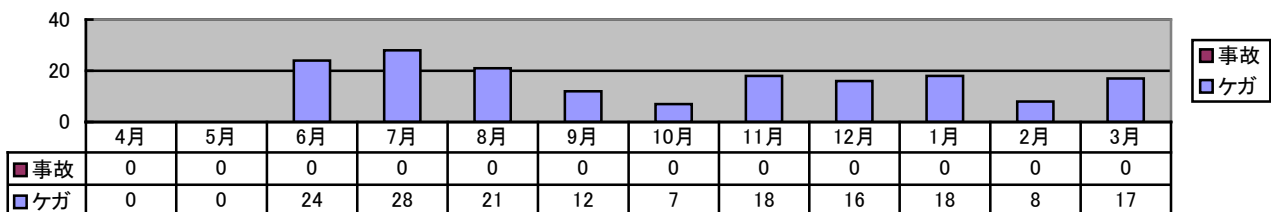
ヒヤリ報告



②ヒヤリハット以外のケガ報告件数（ケガノート）・・・169件

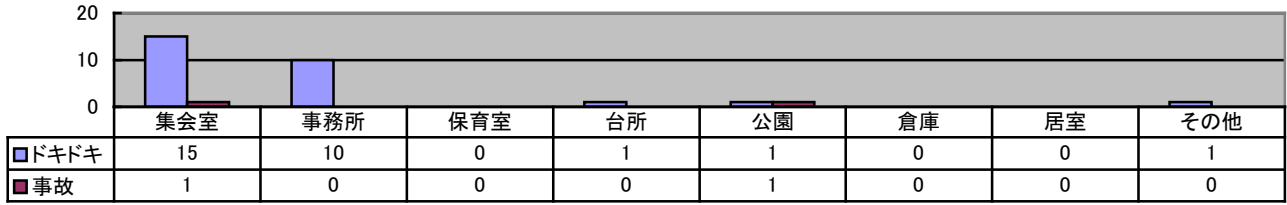
→6月より、記録をつけ始める

ケガ報告



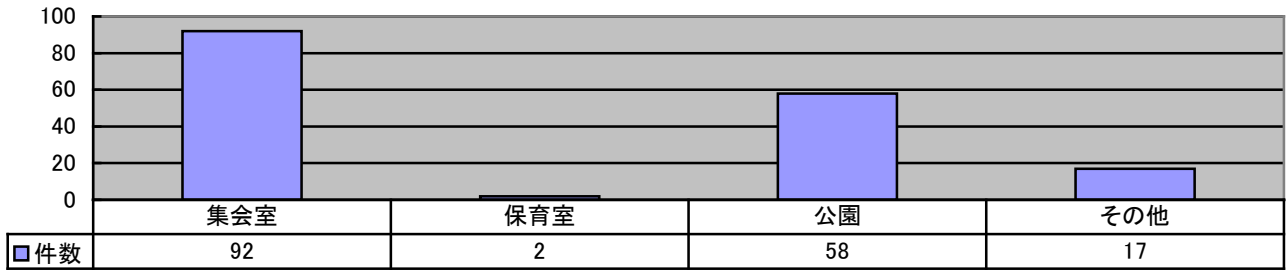
③発生場所

ヒヤリ報告



→職員による事務的ミス、支援面でのミスが多いので、集会室と事務所による報告が多い。

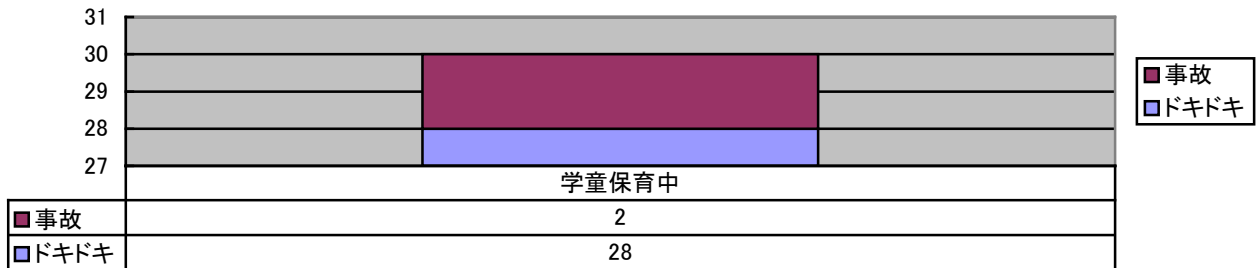
ケガ報告(場所)



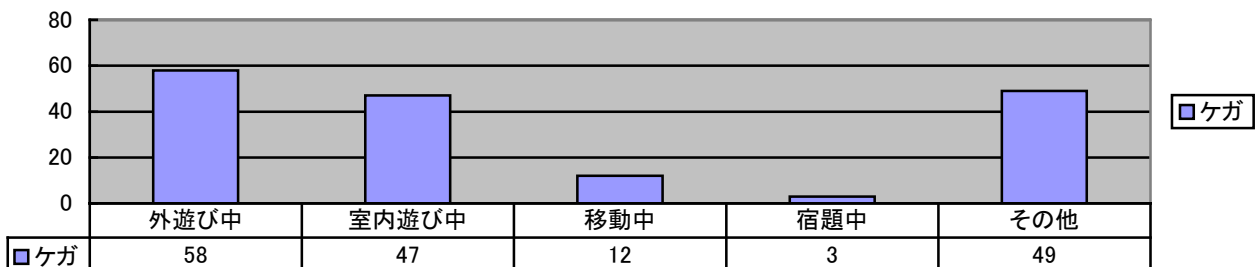
→長い時間過ごす場所に比例し件数も多い

④発生状況

ヒヤリ報告



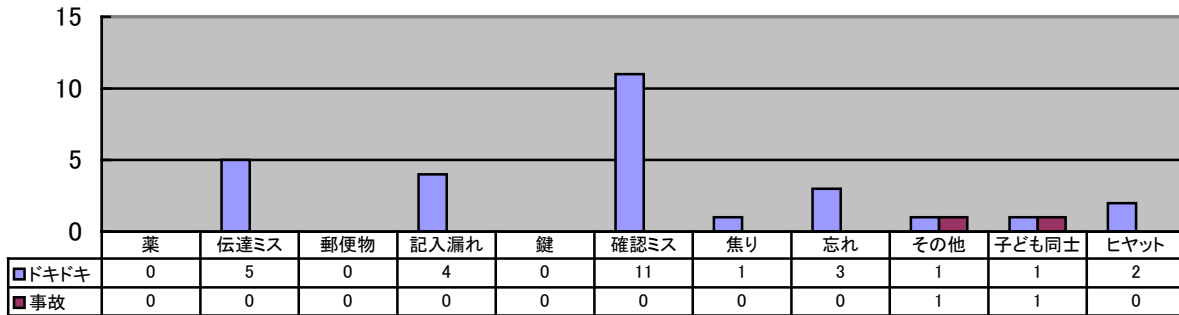
ケガ報告(状況)



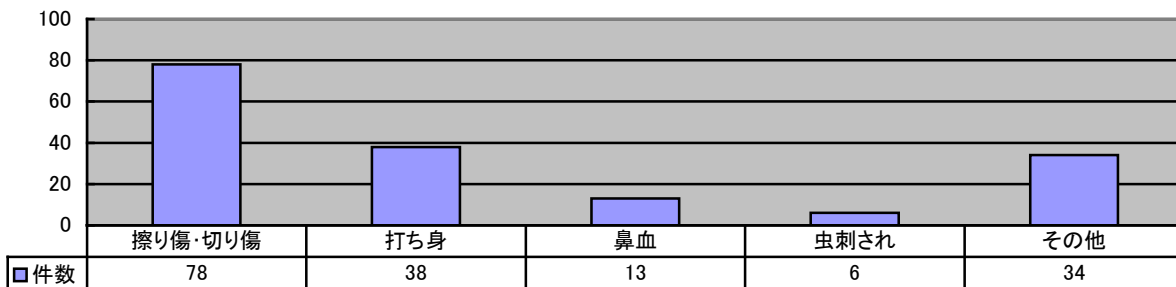
→室内、室外共に遊び中の不慮のケガが多かった。その他とは、学校や下校中に起こったケガを学童で手当てした件数である。

⑤発生内容

ヒヤリ報告

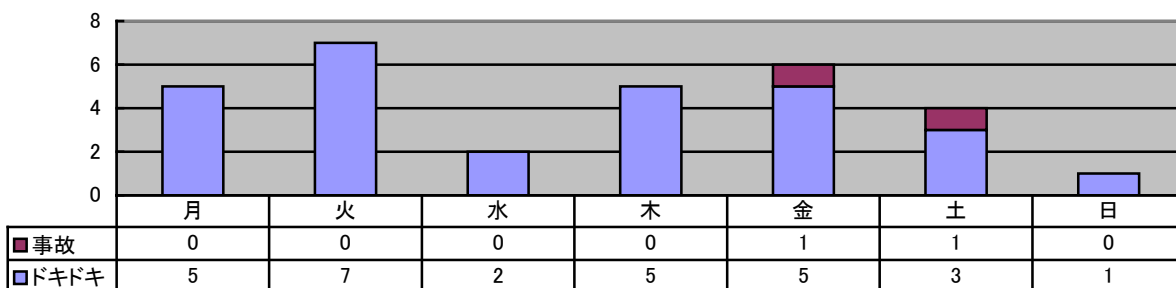


→職員による事務的ミス、確認ミスが多い。

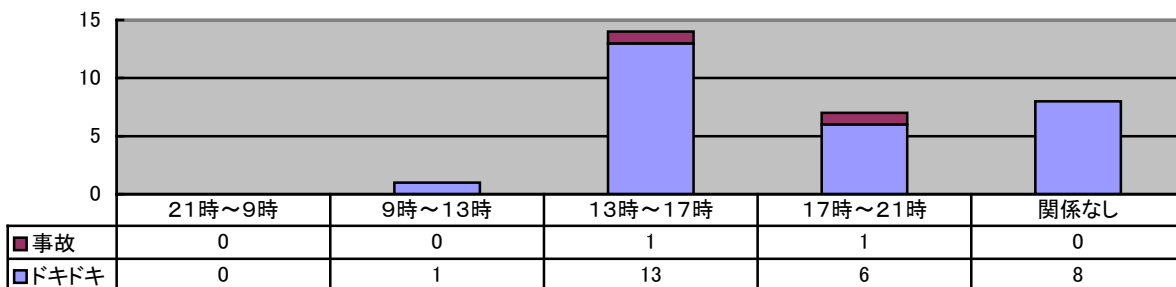


→室内、室外共に擦り傷や切り傷が一番多かった。その他としては、処置できないケガ（口の中や唇の傷等）が入る。

⑥発生曜日



⑦発生時間帯



→学童が登所してから帰る時間までの間の件数が多い。

⑧まとめ

→今年度よりケガ報告を行うことにし、子ども達がどのような時、場所で、どのようなケガをし、

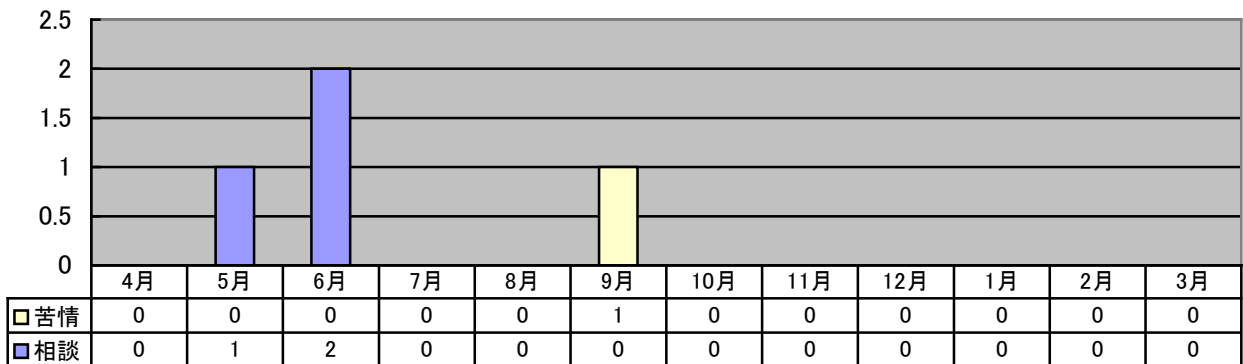
職員はどのような処置を施したか等、職員全員が把握するようにした。
 場所別では公園と集会室でのケガが一番、多かった。発生状況別では、遊びの際に走ってこけたり等、防ぐ事の難しいケースが多く、ケガ内容としては、すり傷やたんこぶが多かった。職員一同、ケガが起こった際は、すぐに対応出来る様、日頃から努めていきたい。

12. 《苦情・相談結果報告》

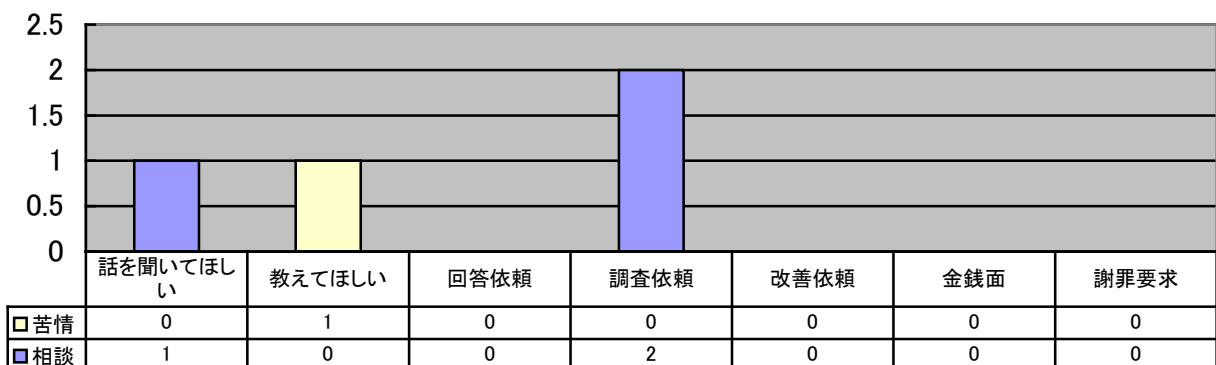
苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

件数…苦情1件、相談3件

○報告件数



要望分類



※複数回答しているため件数が多い。

○主な内容

言葉の取り違い・子ども同士のトラブル・宿題のチェック方法について

○まとめ

苦情が1件あるが、事務所側と保護者との言葉の取り違いで起こった。また相談は、子ども同士のトラブルの改善依頼が2件あったので、職員一人ひとりの保育能力を上げ、トラブルが起こらない様、改善に努めていきたい。

13. 《総括》

22年度から引き続き、玩具の使用方法について、子ども達に話しをし、ルールの掲示も行い、一人ひとりが守れる様に努めた。また、新たに外遊びの時の約束事を作成し、外遊びへ行く前には必ず読む様にした。その結果、室内遊び、外遊び共に、子ども達自身にルールを守る事の意識付けができ、22年度に比べるとルールを守って遊ぶ姿が見られた。来年度の学童でも約束事が守れる様、上記の様な働きかけを今後も行っていきたい。